



2019年4月1日

ブロードメディア・スタジオ株式会社

(主演・カレル・トレンブレイ)

**[東京国際映画祭<<ジェムストーン賞>>受賞]**  
**[トロント国際映画祭<<最優秀カナダ長編映画賞>>受賞]**

# 『さよなら、退屈なレオニー』

## 公開日 & 邦題決定

いつもお世話になっております。2018年東京国際映画祭にて(原題『螢はいなくなった』として)上映され、輝きを放つ若手キャストに贈られる<ジェムストーン賞>を受賞した本作が邦題改め『**さよなら、退屈なレオニー**』として、**6/15(土)**より新宿武蔵野館ほか全国順次ロードショーが決定いたしました。

**グザヴィエ・ドランにつづく新鋭 × 「東京ジェムストーン賞」受賞の未来を担う女優**

**カナダの新たな輝く才能が贈る、胸にそっと仕舞っておきたくなる青春映画の傑作が誕生一。**

2018年カナダでスマッシュヒットを記録した『さよなら、退屈なレオニー』は、自分がやりたいことも自分の居場所もみつからない、カナダの小さな街に住む17歳の少女レオニーの物語。監督はカナダの新鋭、セバスチャン・ピロット。前作『The Dismantling』(13)は、カンヌ国際映画祭<SACD賞>や、トロント国際映画祭<国際映画批評家連盟賞>を受賞するなど、カナダ映画界の新生代として注目を集める。ヒロインのレオニーを演じるのはカレル・トレンブレイ。2015年のトロント映画祭で「未来を担うひとり」に選ばれ、2018年東京国際映画祭で(原題『螢はいなくなった』として)上映され、輝きを放つ若手キャストに贈られる<ジェムストーン賞>を受賞するなど、すでに日本の映画ファンも魅了している。さらに、「アーケイド・ファイア」や「RUSH」など、カナダを代表する人気バンドらの曲が劇中を彩り、今の世の中に居場所が見つけれない若者達、そして、大人達にささやかな勇気を与えてくれる青春映画の傑作が誕生した。

**あの頃の<きらめき>と<痛み>がよみがえる、ひと夏の泡沫青春ダイアリー。**

<STORY>カナダ・ケベックの海辺の街で暮らす17歳の少女、レオニー。高校卒業を一ヶ月後に控えながら、どこかイライラした毎日を送っていた。退屈な街を飛び出したいけど、自分が何をしたいかわからない。口うるさい母親も気に入らないが、それ以上に母親の再婚相手のことが大嫌い。レオニーが唯一、頼りにしているのは離れて暮らす実の父親だけだった。

そんなある日、レオニーは街のダイナーで年上のミュージシャン、スティーヴと出会う。どこか街になじまない雰囲気纏うスティーヴに興味を持ったレオニーは、なんとなく彼にギターを習うことに…。夏が過ぎていくなか、あいかわらず、口論が絶えない家庭、どこか浮いている学校生活、黙々とこなす野球場のアルバイト、それから、暇つぶしで始めたギター…毎日はずまらないことだらけだが、レオニーのなかで少しずつ何かが変わり始めていた。

監督：セバスチャン・ピロット 出演：カレル・トレンブレイ/ピエール=リュック・ブリラント

2018年/カナダ/英題:The Fireflies Are Gone/96分/ビスタ

配給：ブロードメディア・スタジオ©CORPORATION ACPAV INC. 2018 <http://sayonara-leonie.com>

**6月15日(土) 新宿武蔵野館ほか全国順次ロードショー**

【問い合わせ】配給：ブロードメディア・スタジオ(宣伝・営業 福田、梅原)TEL:03-5413-5487 info-movie@bmstd.com